「地域を愛し、自分で考え 自分で行動する子ども」を育てる

コミュニティ・スクール 通信

令和５年度　第１号　４月２６日

日の里学園コーディネーター　北岡 隆博

この通信では、日の里学園が進めている「小中一貫コミュニティ・スクール」について、児童生徒の交流活動や地域と関わる学習活動を中心にお知らせいたします。

「日の里学園歓迎遠足」

日の里学園は小中一貫教育を始めて今年で18年目、小中一貫コミュニティ・スクールを始めて5年目になります。その18年前から日の里学園では毎年、小中の児童生徒が一緒になって実施する「交流活動」を年に３回実施しています。それらは、１学期の「歓迎遠足」、２学期の「クリーン作戦」、３学期の「９年生を送る会」です。

歓迎遠足の目的は、①新１年生を歓迎することを通して、小中学生のつながり深め、学園としての一体感を感じること、②９年生がリーダーシップを発揮することを通して、学園の最上級生としての自覚を高めることです。

本年度は天候が心配されましたが、4月21日（金）に学園の全児童生徒959人と全教職員が集い、計画通りに歓迎遠足が行われました。

今年度から「小中交流をさらに充実させる」ために、グループ活動を増やしました。このグループ活動は、１～９年生までの約20人が１つのグループとなって活動するものです。朝、まず中学生が自分の出身の小学校に行き、グループに分かれて顔合わせとレクリエーションを行いました。その後、グループで一緒にユリックスに行きました。ここでは６年生が１年生と手をつないで歩く姿が見られました。ユリックスの芝生広場では、９年生のリードで学園全体の歓迎式やレクリエーションを楽しく行い、その後、グループごとに弁当を食べたり遊んだりしました。そして帰りも小中学生のグループで一緒に帰りました。

上の写真は、芝生広場で生徒会役員がリードして対面式を行っている場面と、グループごとに輪になって昼食を楽しんでいる場面です。

この歓迎遠足での交流を通して、学園の子どもたちのつながりをさらに深めることができ、児童生徒も教師も学園としての一体感を感じることができたと思います。また、９年生はリーダーとしての自覚を高め、１～８年生は９年生の姿に信頼感やあこがれの気持ちをもつことができたと思います。18年目を迎えている日の里学園小中一貫教育のよき伝統をしっかり引き継ぐことができていると感じました。